



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2015年10月 Vol. 18

Congo Shot! - 今月のキンシャサ

国立職業訓練機構千クヤ総裁の国際協力感謝賞受賞



コンゴ民では親しい間柄では握手ではなく、昔からの習慣で頭をぶつけあいます。千クヤ総裁と青木所長、すっかり打ち解けて頭ゴツン関係になりました♪

コンゴ民では、「受賞ラッシュ」を迎えているとご紹介したばかりですが(詳しくは16号)、更なる嬉しいニュースが!!
当地では、長年に亘って雇用促進を目的とした国立職業訓練機構への支援を行っています。同機構を強いリーダーシップで率いるのがモーリス・千クヤ・カイエンベ総裁。同機構のたたき上げで、政財界にも知己が広く人望もあることから、大臣就任の打診も受けたこともあるとの噂。しかし、ご本人は、職業訓練という職業に愛情と強い使命感を持ち、大臣ポストを断り、現在の仕事に一生をかける、まさに漢! JICAプロジェクトの活動にも熱心に取り組んで下さっており、このプロジェクトの成功は千クヤ総裁の尽力のおかげと言っても過言ではありません! そうした日頃の感謝をこめて当事務所が推薦したところ、今回、JICA国際協力感謝賞を見事、個人受賞されました☆おめでとうございます!

Congo Life! - キンシャサで生きる -

キンシャサレジャー事情：市民の憩いの場!? 動物園

「アフリカ」と聞くと何を思い浮かべますか? サファリや野生動物をイメージする方も多しはず。コンゴ民にもボノボ(チンパンジーに似たサル)、オカピ(外見はシマウマに似たキリンの仲間)等の固有種がいるものの、彼らの生息地は奥地。キンシャサから遠いうえ、安全上の問題で残念ながら観に行くことは叶いません。「え、せっかくコンゴ民に行くのに、ツマラナイ」と失望したそこのアナタ! 朗報ですよ! キンシャサ市内、JICA事務所からは車で15分程の場所にあるんです、ど・う・ぶ・つ・え・ん。名前はJardin Zoologique、入園料は1人5ドル程。コンゴ人は大人1人2ドル程で入れるので、週末は家族連れで賑わいます。ここに暮らすはサル、ワニ、ヘビ、トリ、ウマなど。動物園のいわゆる「花形」はいませんが、圧巻はサルの種類の多さ! 馴染深いチンパンジーから、日本では動物園でも見たことのないような「グレムリン」さながらの姿のサルまで。サル好き垂涎のラインアップ!
ここでお勧めはガイドツアー。入園すると、どこかともなく「普通の(制服とかは着ていない)」オジサンが近寄ってくるので、怪しまずにガイドをお願いしましょう。素人には分かり得ないワニの年齢やトリの習性等を教えてくださいます。そしてクライマックスはチンパンジーの芸当。オジサンの掛け声と「ビールあげるよ～」との甘い言葉に乗せられて、大人チンパンジーがジャニーズアイドル顔負けのバク転を披露! スゴ技の興奮冷めやらぬままツアーは終了、オジサンからのガイド料&チンパンジーのビール代請求のお時間です。「ビール、オジサンが飲むのでは?」なんて疑問が頭をよぎるも、気持ちよく精算を終えたら、我々人間もLet's 昼飲み!



大人気! 赤ちゃんチンパンジー。その可愛さに大人も子供もメロメロ!
注: 野生動物なので、日本の皆さんは触れてはダメ



大人チンパンジーは「見てるなら何かくれ!」

Eat Congo! - キンシャサで食べる

キンシャサの伝説!? Le Mandarin



エレベーターを降りると、...そこは元祖中華ワールド!



キンシャサ北部を一望。コンゴ川の向こうにはフラザビル。

目抜き通りの6月30日通りを見下ろす、ビルの最上階にそれはある。1969年から変わらぬ味を守り続け、キンシャサの発展と混乱を見つめ続けてきた中華の老舗。1980年代のマタティ橋建設に携わったエンジニアの皆さんから現在に至るまで、JICA関係者の食生活を支えて続けてきた中華レストラン「マンダリン」。もはやキンシャサの生けるレジェンド、もう一つのキンシャサの奇跡と言っても過言ではありません!?

滞在者はもちろん、眺めが良いので多くの出張者も訪れる有名店なので、各種旅行サイトでも必ず紹介されています。乗るたびにちょっとドキドキするエレベーターとともに記憶に焼き付いている方も多いのでは? 気になるお味は? 一定の評価が定着していますが、この中華スーフは様々な香辛料が織りなす重奏的な味わい(?)で好みが分かれるようです。

いつも入口付近に鎮座されるホワイトヘアの店主は、開店から数えて3代目! もともと香港で政府系の仕事をしてきた彼の祖父が、友人の誘いに乗ってキンシャサにたどり着いたのが始まりだとか。以来40年以上、先駆者としてキンシャサの中華ワールドを守ってきたのです。当時のザイルで初?の中華レストランを開店する、なんとも起業家精神に溢れた御仁だったんですね。(日本人も頑張らなくては! という気持ちにさせられます☆)

最近では中華レストランも増えて長期滞在者としてはうれしい限りですが、やはりキンシャサの中華と言えばマンダリン! これからも伝説として生き続けてほしいですね!!

保健の連載第2回目は技術協力プロジェクト「保健人材開発支援プロジェクトフェーズ2」に焦点を当てていきます☆

同プロジェクトは2011年から2013年にかけて実施されたフェーズ1の後継として、2014年1月末に開始され、現在3名の日本人専門家がキンシャサに長期滞在しながら日々奔走しています。「保健人材開発」って何？と馴染みのない方も多いかもしれませんが、保健人材の養成、配置、定着、キャリア管理の支援を指します。フェーズ1ではこれらの政策・規程の基盤となる「国家保健人材開発計画(2011-2015)の策定・承認を支援し、フェーズ2ではこの国家計画の評価を行い、次世代の「国家保健人材開発計画(2016-2020)」の策定支援を予定しています。また、今フェーズからは首都キンシャサだけでなく、コンゴセントラル州、(旧)西カサイ州、(旧)カタンガ州でも活動を展開し始めました！2014年6月にコンゴ・セントラル州で「国家保健人材開発計画」に基づいたコンゴ民初の「州保健人材開発計画」が完成したのを皮切りに、(旧)西カサイ州、(旧)カタンガ州の州計画も完成！

どこに、どれだけの人材がいる、という基本的な情報が保健省で把握されていないのは前号でも述べましたが、保健省が持っている人材リストが公務員省、予算省(給料の支払いを担当)が持っているリストと一致していないのはもはや誰も驚かず。この問題を解決すべく、プロジェクトではコンゴセントラル州とオ・カタンガ州で保健人材データベースの構築も支援しています。石嶋専門家(キンシャサの軌跡12号参照)がデータマネージャ研修を行い、その後現場では担当者が各保健施設を回り、職員一人ひとりの顔写真を撮り、地道に作業を行います。保健人材の配置が明確になることで、今後より現実に即した計画が立てられるようになります！

(注:コンゴ民では従来の11州制を継続してきましたが、憲法で規定されている26州制への移行が進行中です。)



州保健大臣にプロジェクトの説明を行う
技フリーダーと専門家@マタティ



データマネージャ研修で指導する専門家

夜も輝け！「コンゴ・日本大通り」に街路灯設置☆

コン月のイベント



最高品質を誇る道路！



夜のコンゴ・日本大通り
多くの車、バイク、歩行者が利用

コンゴ民で最も素晴らしい道路は？と問われれば、日本の無償資金協力で建設された「ポワ・ルー通り！」という回答がほぼ100%返ってきますが、オシイ！答えは「コンゴ・日本大通り」。「ポワ・ルー通り」は、その道路建設の質の高さから住民投票の結果、「コンゴ・日本大通り」へと名称が変更になったのです！

さて、この大通り、高品質で車の走行も滑らかと評判高いのですが、一つ問題が。道路拡張時に既存の街路灯を移設させなければならなくなり、この作業はコンゴ政府の負担で実施することになりました。しかし、もともと街路灯が足りないキンシャサ。一時撤去された街路灯はいつのまにやら他の場所に。。。来年には大統領選挙を控えており、政府予算は火の車。この通りは工業地帯にあり、夜になると工場等が閉まるため灯りはなく、真っ暗。しかし、もともと歩行者が多く、道路が良くない車輛の通行量が増えたため、街路灯の設置が急務となりました。そんな中、この素晴らしい道路の街路灯設置はやっぱり日本にお願いしたい！とインフラ省を初めとするコンゴ民側からの懇願。それを受けて、現在、日本の協力での街路灯設置につき検討を進めています！停電の多いキンシャサ市内。停電中も街路灯がきちんと稼働するように太陽光パネルとLED電球を使用する方向で検討中です。街路灯設置に加え、間もなく開始される予定の技術協力プロジェクト「道路維持管理能力向上プロジェクト」で適切な道路メンテナンスを実施し、「コンゴ・日本大通り」をコンゴ民の「モデル道路」とする！とはコンゴ民インフラ省。

空港と市内中心を結ぶこの道路。コンゴ民に來られる皆さん！夜便での到着でも、コンゴ・日本大通りを通れば、スムーズかつ安全に市内まで到着すること請け合いです♪

愛すべき？コンゴ人



所属: インフラ省インフラユニット
氏名: ムタンバ氏

コンゴ民のインフラセクターに携わること、35年余り。政府関係者、ドナー関係者に広く顔が利き、問題が起きたとき、関係機関と連絡がとりたいときに頼りになるのがこのムタンバ氏。

停電の多いキンシャサ市内。電気に困らないよう自宅に太陽光パネルを張り巡らせ、太陽光発電で家庭の電気を賄うエンジニア魂！コンゴ・日本大通りの太陽光パネルの管理も彼なら確実☆

編集後記

＜☆今月のリンガラ語＞ 「トケイ」
終業時刻間近になると、事務所ナショナルスタッフの間で飛び交うのがこの言葉。終業時間に「トケイ」と言えるようタイムマネジメントはしっかりしなきゃと日々反省(涙)
前号の答えは、「マカシ」=「強い」。雨期に入り雨が降った後は、陽射しが「マカシ」で気温も上昇。冷房大好きナショナルスタッフがマカシに冷房をつけるも後でこっそり弱める日本人スタッフ。

さて、次号からは、新しい編集長へとバトンタッチです！進化するコンゴ民とともに「キンシャサの軌跡」もグレードアップ！引き続きご愛読のほどよろしくお願い致します♪